

## T5章 時間の否定

事象の時間的側面の否定を扱います。

### T5.1 否定は時空をカラにする (76)

否定とは、概念の示す事象によって満たされるはずの時間と空間がカラであるとの認識です。

### T5.2 時間的否定 (77)

時間的否定は、時間がカラであるので、破線で図示します。

時間的否定を2桁数字で表示するときは数字の前に否をつけます。

### T5.3 「している」の否定 (78)

「しないでいる否定」と「していない否定」があります。

### T5.4 過去を表す未来形・現在形 (79)

過去なのに、「飲みません」「飲んでいません」のように未来形・現在形を使うことがあります。なぜでしょうか。

### T5.5 「ご飯食べた？」への否定回答 (80)

「いや、食べなかった。」「いや、食べてない。」どちら？

## T5.1 否定は時空をカラにする

## 22 章

否定とは……「概念の示す事象によって満たされるはずの時間と空間が空(から)であることの認識」です。

## 空間的否定の図示

存在の肯定・否定……人間はある物体が存在しているときにはその物体を見ますので、「はさみがある」(肯定)は図T5-1 のように示せます。「はさみがない」(否定)というときは、「はさみ」という概念だけがあって、物体がなく、物体があるはずの空間がカラであるので、図T5-2 のように破線で示すことになります。



図T5-1 ある



図T5-2 ない



図T5-3 歌う

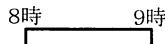


図T5-4 歌わない

動作の肯定・否定……「彼が歌う」(肯定)というときは図T5-3 のように示せますが、「歌わない」(否定)というときは「歌う」という概念だけがあって、その行為がなく、空間はカラになりますので、図T5-4 のように破線で示すことになります。(「花子」の図を使用)

## 時間的否定の図示

「彼が歌う」という事象は、たとえば8時から9時まで生起するものとすれば図T5-5 のように示すことができます。「彼は歌わない」という否定は、事象によって満たされるはずの時間がカラになりますので、図T5-6 のように破線で示します。



図T5-5 歌う



図T5-6 歌わない

## 判断の空間的側面と時間的側面

たとえば、事象「彼が歌う」に対する判断は、歌うすぐそば、隣の建物、地球の裏側、つまり、空間のどの位置から捉えるかに関係なく、同じく「彼が歌う」という表現になります。一方、時間的には、歌う前、最中、後のように時間的位置が異なると「彼が歌う、歌っている、歌った」のように表現が異なります。

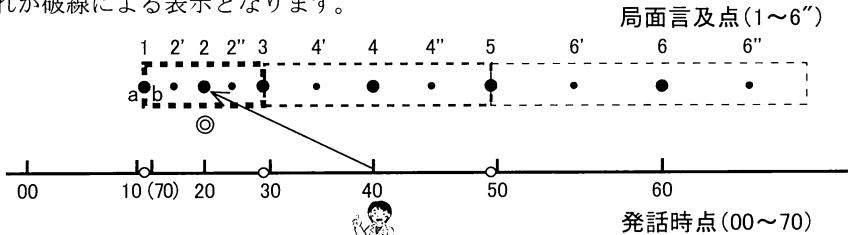
このように、事象に対する判断の表現は、空間的側面と時間的側面では異なっています。肯定でも否定でもこのことは言えます。

問T5-1 「私は2時から5時まで家にいません。」を時間と空間で図示してください。

## T5.2 時間の否定

## 否定は破線で図示

図T1-30 (p.14) として時相基本モデル(2桁数表示)を示しましたが、否定ではこれが破線による表示となります。



図T5-7 時相基本モデル・否定

## 数字表示には[否]をつける

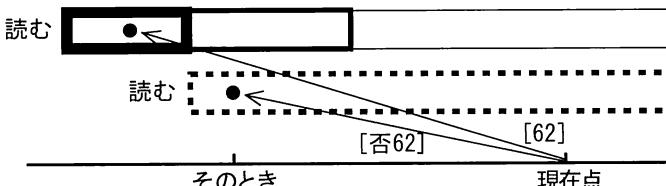
上図の言及線で示されている時間関係は[42]ですから、肯定ではたとえば「本を読んでいた。」となります。この図では否定の「本を読んでいなかった。」となります。この否定の時間関係を[否42]のように表示します。

- [否 0 ◎] 明日は本を読まない。
- [否 22] 今は本を読んでいない。
- [否 44] 今は着物を着ていない。
- [否 4 ◎] 彼はレポートを出さなかった。
- [否 66] 彼は当時あの映画を見ていらない。

## 肯定と否定は独立した図で

同一動詞の肯定と否定が共存する文もあります。

彼は本を読んでいた[62]が、そのときにはもう読んでいなかった[否62]。これを図示するためには、動詞「読む」を肯定と否定で分けて扱う必要があります。



図T5-8 同じ動詞でも肯定と否定は別の図で表示

問T5-2 「私は明日走りません。」を時間図と2桁数字で示してください。

## T5.3 「している」の否定

23 章

## 「している」の否定は2とおり

「して いる」には、右に示すように  
 「していない否定」「しないでいる否定」  
 の2つの否定形式があります。

「て」は開始後の局面を表します。

「着ていない」は「着る」ことの開始後に主体が存在しないことを表します。

……それで、「仮想開始<後>の否定」ということができます。

着 <u>ている</u>	着 <u>ている</u>
↓	↓
着 <u>ていない</u>	着 <u>ないで</u> いる

しない否定 しないでいる否定

図T5-9 しない／しないでいる

肯定 着ている 着ている 着ている

しない否定	着 <u>いない</u>	着 <u>いない</u>	着 <u>いない</u>
仮想開始後否定	着 <u>いない</u>	着 <u>いない</u>	着 <u>いない</u>

しないでいる否定  
 仮想開始前否定 着ないでいる (着)

図T5-10 仮想開始「後」否定／仮想開始「前」否定

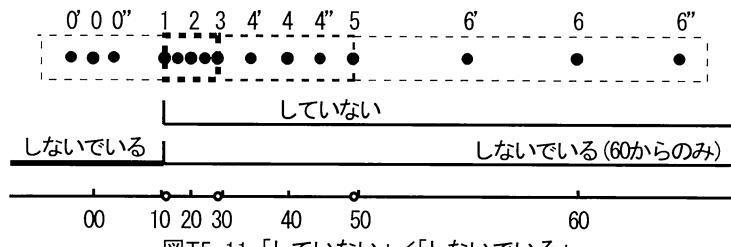
「着ないでいる」は「着ない」ことの開始後に主体が存在することを表します。

「着ないでいる」の完了は「着る」ことの開始です。

……それで、「仮想開始<前>の否定」ということができます。

## 「している」の否定の時間基準図

これに基づいて、次の「している」の否定の時間基準図を導くことができます。



図T5-11 「していない」／「しないでいる」

[否 00] 映画は見ないでいる。(彼から誘われたら見る。)

[否 00'] 映画は見ないでいた。(いまも)

[否 64] 当日は着物を着ていなかった。

[否 60] 当時は中国語は勉強しないでいた。

[否 66] 当時は中国語は勉強しないでいる。／勉強していない。

## T5.4 過去を表す未来形・現在形

## 24章

## 過去の否定表現は省略(省力)される

過去についての質問に、未来形の否定回答が出ることがあります。

質問：きのう、お酒を飲みましたか。

肯定回答：はい、飲みました。(\*はい、飲みます。…になりません。)

否定回答：いいえ、飲みません。(未来形？「飲みませんでした」のはず。)

過去のことなのになぜ未来形が出るのでしょうか。……これは、質問から過去であることが自明なので、「飲みませんでした」[否 6 ◎]の過去を示す「でした」を省略(省力)して、発話労力を軽減させたものと考えられます。結果として未来形[否 0 ◎]と同じになりました。発話者の気持ちはあくまでも「過去」です。

※元来は「くださいませ」で依頼を表していましたが、依頼を表す「ませ」が省略されて「ください」だけになりました。この形になっても、省略された部分の「ませ」の依頼の意味が保たれています。これと似ています。

普通体の場合も起ります。

質問：きのう、お酒飲んだ？ [6 ◎]

肯定回答：うん、飲んだ。[6 ◎] (\*うん、飲む。…なりません。)

否定回答：いや、飲まない。(未来形？「飲まなかつた」のはず。)

これは、質問から過去であることが自明なので、時相の要素をはずして否定の要素だけにして、本来の「飲まなかつた」より短くしたものと考えられます。発話労力が軽減され、結果として否定の未来形[否 0 ◎]と同じになりました。

## 過去なのに現在形？

上の同じ質問に、肯定でも否定でも、現在形の回答が出ることもあります。

質問：きのう、お酒飲みましたか？／きのう、お酒飲んだ？

肯定回答：はい、飲んで(います)。／うん、飲んで(いる)。

否定回答：いいえ、飲んで(いません)。／いや、飲んで(いない)。

これは「現在の記憶継続の局面」[66][否 66]で回答しているためです。事象自体は過去ですが、「ている」で表します。(「現在の結果状態継続の局面」[44][否 44]で答えてている可能性もあります。)

問T5-3 「『雪国』は読んでいない。」の局面②④⑥の意味を説明してください。

問T5-4 質問に答える場合はなぜ過去でも「飲みません」と言えるのでしょうか。

## T5.5 「ご飯食べた？」への否定回答

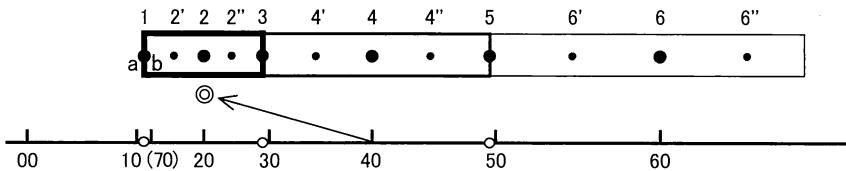
25章

「ご飯食べた？」への、動詞「食べる」を使った否定回答は3通り考えられます。

- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| (1) いや、食べなかった。   | (いいえ、食べませんでした。)  |
| (2) いや、食べて(い)ない。 | (いいえ、食べて(い)ません。) |
| (3) いや、食べない。     | (いいえ、食べません。)     |

ご飯食べた？

お昼どきの質問と仮定します。言及線は[4 ◎]です。

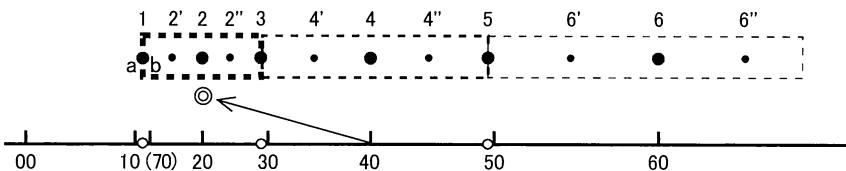


図T5-12 ご飯食べた？

[4 ◎] 「食べた」事実があるかないか、を聞いています。

(1) いや、食べなかった。

質問と同じ言及線で否定で回答しています。

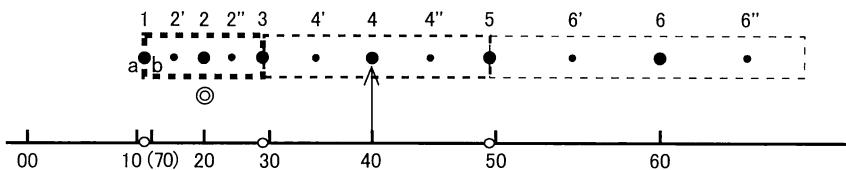


図T5-13 食べなかった／食べませんでした

[否 4 ◎] 「食べた」事実はない、と答えています。「食べませんでした」は「でした」が省略されて、「いいえ、食べません。」ともなります。

(2) いや、食べて(い)ない。

言及線[44]で結果状態の否定で回答しています。

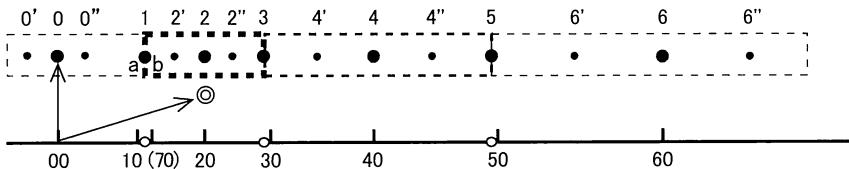


図T5-14 食べて(い)ない／食べて(い)ません

[否 44] 「食べた」後の満腹の結果状態にない。(だから食べる必要がある。)「食べて(い)ません」も同じで、局面④を否定しています。

(3) いや、食べない。

この場合3つの解釈が可能です。



図T5-15 食べない・食べません／食べない(でいる)

[否 0 ①] これであれば「未来においても食べない」の意味になります。たとえば、「今日は食べない」の意味です。「食べません」も同じです。

[否 0 0] これであるとすれば、「食べないでいる」の「でいる」の省略形で、食べる機会を待っていることになります。(「食べません」にはこれは当てはまりません。)

[否 4 ①] これであるとすれば、質問で自明となった過去の要素を省略して否定の要素だけにしたものです。「食べません」でも同じです。

## どれで回答しますか

以上の(1)～(3)の選択肢のうち、その時の気持ちに合う最適な回答を選んで答えればよいことになります。

「ご飯食べた」と聞いた人が「もし食べていなければ、一緒に食事をしないか」というつもりであり、聞かれた人もそれを受け入れるのであれば、

(2)の 「いや、食べて(い)ない。」や、  
「いいえ、食べて(い)ません。」

が最適です。これらは局面④の満腹になった結果状態を否定し、「いま空腹です」と答えて、これから食事をする必要があると言つてのことになるわけですから。

(1)の 「いや、食べなかつた。」

「いいえ、食べませんでした。」「いいえ、食べませんでした(でした)。」で答えたら、単に食事をしなかつた事実だけを答えることになって、自分の今の「食べたい」という気持ちを表現できません。

(3)の 「いや、食べない。」

「いいえ、食べません。」

で答えると、食事をしなかつた事実だけを答えることになりますが、場合によつては、「今日は食べません」の意味で受けとられてしまうこともありそうです。

問T5-5 「宿題やつた?」「やらなかつた。」「やってない。」を説明してください。

問T5-6 否定にも4種類の時間表現を当てはめて考えることができるでしょうか。

## コラムT3

1章, 16~17章, A5章

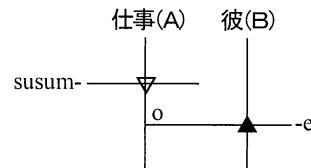
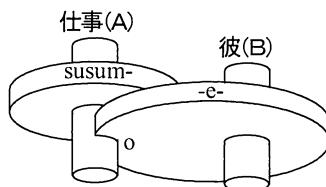
## 日本語構造伝達文法のモデル

日本語構造伝達文法は「構造モデル」と「時空モデル」を設定しています。

## ★[構造モデル]

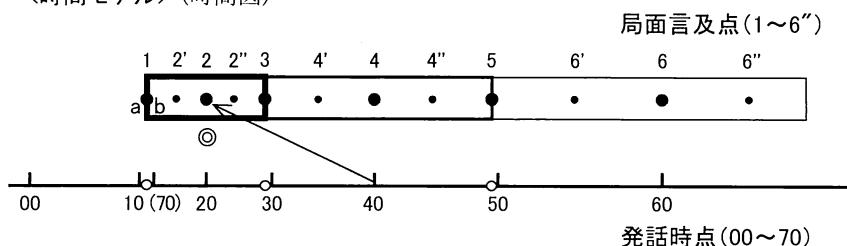
★[時空モデル]……<時間モデル>と<意識空間モデル>があります。

## ★[構造モデル] (構造図)

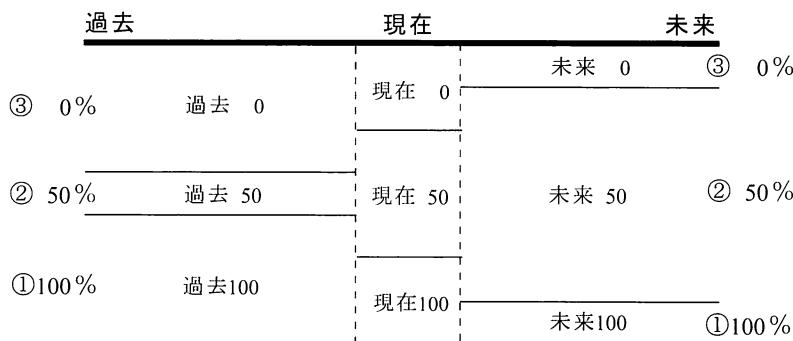


## ★[時空モデル]

## &lt;時間モデル&gt; (時間図)



## &lt;意識空間モデル&gt; (意識空間図) (時域図)



コラムT4

S2.1hs①

## 5+3=8 を構造図で表せる？

「5+3=8」は構造図で表せるのかという疑問があります。

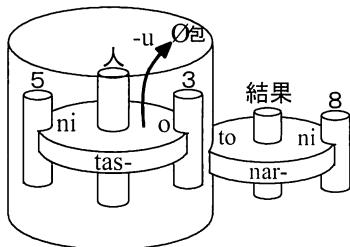
そこで検討してみます。この数式は「5たす3は8」と読み、意味は通じますから論理性に問題はないようです。しかし、この読み方は省略されているようです。省略されない、日本語の文の形にすれば次のようになるでしょう。

5に3をたすと8になる。

すると、動詞は「たす」と「なる」の2つになります。では、その主体は何でしょうか。たとえば、「人がたす」、「結果がなる」のように考えられますので、「人・結果」あたりでしょうか。

(人が)5に3をたすと、(結果が)8になる。

「5」「3」「8」は実詞(名詞)ですから、動詞とは格(論理関係)で結ばれています。「5」は「に格」で、「3」は「を格」で動詞「たす」と結ばれています。「8」は「に格」で動詞「なる」と結ばれています。「と」は国語文法では「接続助詞」ですが、構造では条件を表す「と格詞」です。それで、下の左図のように図示できます。



図Tコ4-1 5に3をたすと8になる

これで一応良いことになりますが、5+3=8は次のような文でも言えます。

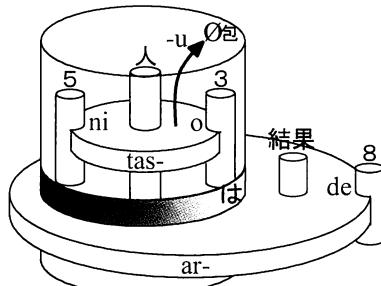
[5たす3]は8である。 [5たす3]が8である。

このように捉えると、これは複主語の文であることになります。

[5たす3]の結果が8である。

計算式特有の表現で名詞化された「5たす3」が原因で、「結果が8である」が結果になっている「因果の複主語」(S2.1hs①)です。構造は上の右図のようになります。

「結果」は自明ですので、表現しなくともかまいません。また「である」は「になる」であることもあります。この場合は、図の de ar- の部分が ni nar- になります。



図Tコ4-2 5たす3は(結果が)8である

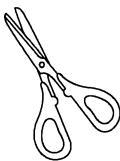
問T5-7 「5 たす3イコール8。」「5 たす3イコール8である。」を説明してください。

## コラムT5

## 26章

否定とうそ（肯定・否定／ほんとう・うそ／真・偽）

否定とは、「概念の示す事象によって満たされるはずの時間と空間がカラであることの認識」であると考えられます(T5.1)。図では破線で示します。満たされていれば肯定の認識になり、実線で示します。



図Tコ5-1 ある(肯定)



図Tコ5-2 ない(否定)



図Tコ5-3 歌う(肯定)



図Tコ5-4 歌わない(否定)

8時 9時

図Tコ5-5 歌う(肯定)

8時 9時

図Tコ5-6 歌わない(否定)

上に図示したのは「ほんとう」の表現です。概念と事象存在の有無が正しく対応しています。これに対して「うそ」とは「概念の示す事象によって満たされるはずの時間と空間がカラであるのに、満たされていると認識・表現すること」です。



図Tコ5-7 ある(うそ)

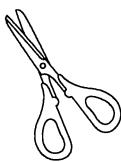


図Tコ5-8 歌う(うそ)



図Tコ5-9 歌う(うそ)

また逆に、「概念の示す事象によって満たされている時間と空間をカラであると認識・表現すること」も「うそ」と言えます。(現実と対応しない表現がウソです。)



図Tコ5-10 ない(うそ)



8時 9時

図Tコ5-11 歌わない(うそ)